

(11) オピニオン 平成15年(2003年)9月4日(木曜日)

韓国大統領の提案

北朝鮮の核開発問題をめぐる六カ国協議が今夏、北京で行われました(八月二十七日から二十九日)。一応、核問題の平和解決に向けた協議継続などで合意して終了しても、具体的な案件は何ら実現していません。しかし、この協議が国内外の強い関心を高め、いろいろな言及がやかましく繰り返されたことを見逃すことはできません。

ところが、私はこうした現在の緊急課題を前にして、東北アジアの平和を考慮にあたって、根源的で広範な問題への対応を提起する意味で、韓

オピニオン

河部 利夫

東北ア「地域際」具体化を

日韓トンネル建設など通じて

「私は、第二次世界大戦が終結した翌年に生まれたが、『羽田・金浦間のシヤトル便』でした。シヤトル(Shuttle)とは機織りの梭(ひ)のこと、左右に頻りに動くのになんて、列車・船舶・航空の演説に、東北アジア

平壤に住む人々と同じ血が流れる民族だった。中略——途絶えた鉄道をつなげれば、ロンドンやパリにも届く。物流費用は三割節約できる。日本との間に海底トンネルをつくれば、日本の列車も欧州まで行ける」と力説しました。しかも、この構想は、既に八〇年代初めから日本、韓国の民間レベルで高まってお

り、私自身、関与する「東北アジア経済協力民間協会」の国際会議(一九九一年、ソウル)で提唱したことがあります。要するに、両大統領ともに、真意は「二十一世紀の東北アジア時代」の念願であります。

(元東京外国語大学教授)